

70年前の日記 北農会館へ

農業学校卒業生・平良さんの遺族寄贈



亡き兄の日記を具志堅強志同窓会長に寄贈した平良榮賢さん(右)＝名護市、北農会館

【名護】県立農林学校(現北部農林高校)の卒業生で宮古島旧平良町出身の故・平良善榮さんの親族が9月29日、平良さんが同校在学中の約70年前に記した日記を、同窓会の資料を保管・展示している北農会館に贈った。日記には学校生活や家族への思いなどが記され、平良さんの誠実な人柄が浮かび上がる。

名護

学校生活・学友の話つづる

日記を寄贈した弟の榮賢さん(76)は「当時のことを知る人たちが読めば懐かしいと思う。資料として活用してほしい」と語り、兄の形見を託した。同校の同窓会資料などによると、1922年生まれ

の榮賢さんは41年に同校を卒業。宮崎や熊本で兵役についたが、荷物の運搬中に肋骨を折る重傷を負い、46年に熊本の陸軍病院で亡くなったという。

寄贈された日記は40年に書かれた内容で、駅伝大会などの学校行事、恩師や学友の話などがつづられている。成績が悪いと「親不孝だ」と自らを戒める記述もあり、寸暇を惜しんで学業に打ち込んでいた様子が読み取れる。

同窓会の元副会長で名桜大学長の瀬名波榮喜さんは、善榮さんの5期後輩。瀬名波さんは「日記を読むと、私たちの経験や記憶が重なり合う」と感激。同窓会の具志堅強志会長は「貴重な資料として広く公開していきたい」と寄贈に感謝した。